

SHOW HEYシネマルーム

★★★

デブラ・ウィンガーを探して

2003 (平成15) 年10月13日鑑賞

Data

監督・製作：ロザンナ・アーケット

出演：エマニュエル・ベアール／ジ
ェーン・フォンダ／サルマ・
ハエック／ダイアン・レイ
ン／キアラ・マストロヤンニ／
グウィネス・パルトロウ／メ
グ・ライアン／シャロン・ス
トーン

👁️👁️ みどころ

憧れの的であるハリウッド女優も、妻であり母であり、そして必然的に1年ごとに歳をとっていく。しかし全世界がハリウッド女優に求めるのは若さ、美しさ、そして華やかさ。そんな中、デブラ・ウィンガーをはじめ多くの女優たちは、「仕事と家庭の両立」に悩みながら、それぞれ「自分の選択」をしてきた。そんなハリウッド女優34名に「仕事と家庭の両立」というテーマでインタビューして、本音を語らせ、この映画をまとめあげたのは同じハリウッド女優のロザンナ・アーケット。一流の女たちの本音はすごい……。特に1937年生まれのジェーン・フォンダの語りは圧巻！

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

<ハリウッド女優の特殊性>

ハリウッド女優、それは全世界の女性の憧れの的であるとともに全世界の男たちの「観賞」のターゲット。スクリーンを通してその姿を全世界の男女に見せる「ハリウッド女優」は、美しさ、華やかさ、そして若さやセクシーさが必要。そしてもっと露骨に言えば、一部の女優については、セックス・シンボルとしての「価値」が必要だ。

このハリウッド女優に求められる、若さ、美貌、華やかさ、演技力その他ありとあらゆる能力を身につけた女優が、近日公開された映画『シモーヌ』（03年）における完全無欠の女優シモーヌだ。もっともこれはコンピューターで合成された架空の女優だったが……。

1年毎に確実に年をとっていくことは、だれも拒否することはできない。昔は秦の始皇帝も「不老長寿」の薬を夢見たがそれはかなわなかったし、あの「スクリーンの妖精」と言われたオードリー・ヘップバーン（1993年死亡）でさえ、晩年の容姿の衰えはどう

しようもなかった。しかしそんな中、素敵に年を重ねている女優たちもたくさんいる。たとえば、ジャンヌ・モロー然り、またメルル・ストリーブ然りだ。

これに対して、ハリウッドの男優たちは、女優たちが持つ価値を持ち得ないものの、「性格俳優」という言葉に代表されるように、老人なら老人なりに、「変な顔」なら「変な顔」なりに、演技力さえあれば自分の「役」を獲得することができる。

このように「ハリウッド女優」というのは全世界から注目される特殊な存在だが、そうであるからこそ、その生きざまは難しく大変。とりわけ「仕事と家庭の両立」が・・・。

<ハリウッド女優における「仕事と家庭の両立」とは？>

女性の社会進出が進む中、日本でも「働く女性」にとつての「仕事と家庭の両立」というテーマが真剣に議論されてきたが、この映画は、ハリウッド女優における「仕事と家庭の両立」について、ロザンナ・アークエットが自ら34名のハリウッド女優にインタビューし、その本音を聞き出したという珍しいスタイルの映画。公開前から既に大きな話題となっていた作品だ。ロザンナ自身も実績のあるハリウッド女優。中でもリュック・ベッソン監督のフランス映画『グラン・ブルー』（88年）が有名だ。

<冒頭シーンは『赤い靴』>

冒頭シーンは、1948年のバレエ映画の名作『赤い靴』。この映画では新人バレリーナは大成功の後、愛する人と結婚したものの、その夫から「仕事はやめてくれ」と言われて絶望し、列車に身を投げて自殺してしまう。なぜ「仕事と家庭の両立」はできないのか？

ロザンナは、祖父はコメディアン、父親は俳優、そして妹も弟も同じ俳優という芸能一家に育った。そして自分自身も10代からテレビに出演し、その後ハリウッド女優として華やかな道を歩みながら、他方で結婚・子育て・離婚等の「試練」を経験した。このような経験をもつロザンナにとっては、この『赤い靴』の主人公であるバレリーナの悲劇は決して他人事ではなく、自分自身にとつても大きなテーマだったわけだ。

<デブラ・ウィンガーとは？>

この映画のタイトルとなっているデブラ・ウィンガーという女優は、その出演した『愛と青春の旅立ち』（82年）、『愛と追憶の日々』（83年）、『永遠の愛に生きて』（93年）の3作全てがアカデミー主演女優賞の候補となった美人女優。そしてその後、結婚・出産・離婚を経ながら、数本の映画に出演したものの消息が途絶えていた女優だ。このデブラ・ウィンガーは今どうしているのだろうか？という興味をもったのがロザンナだ。ロザンナはそれをさらに膨らませて、「若くてセクシーな女優」がもてはやされるハリウッド映画界の中で、自分と年代の女優たちが「仕事と家庭の両立」というテーマについてどのように考えているのかを聞いてみたい、という興味を持ったことによって、この映画が生まれ

たわけだ。もっとも、ハリウッド女優に対してこのような興味があっても、そう簡単にはインタビューすることはできないし、仮にできたとしても容易に本音を聞き出すことはできず、通り一遍のものになってしまう可能性が高い。しかし同じ体験と同じ悩みを持つハリウッド女優のロザンナであればこそ、それが可能となったのだ。

<34人のハリウッド女優たち>

ロザンナは忙しい日程をやりくりしながら合計34名のハリウッド女優へのインタビューに成功し、それをロザンナの感性に従ってこの映画にまとめあげた。もっともスケジュールの都合でインタビューが実現できなかった女優も多い。カトリーヌ・ドヌーヴやジャンヌ・モローは「撮影中」でダメだったし、メルル・ストリープとジュリアン・ムーアもインタビューをやりたかったが実現しなかったとのこと。

私はこの映画に登場する34名の女優すべてを知っているわけではないが、約半数は顔を知っているし、作品にも結びつく。『恋に落ちたシェイクスピア』（98年）のグウィネス・パルトロウ（1972年生まれ）やイタリアの俳優マルチェロ・マストロヤンニの娘のキアラ・マストロヤンニ（1972年生まれ）等の若手美人女優もいるが、多くの女優達は40代が中心だ。メグ・ライアン（1961年生まれ）やダイアン・レイン（1965年生まれ）もいる。この映画で再三画面に現れるのが、『水の微笑』（92年）や『硝子の塔』（93年）のシャロン・ストーン（1958年生まれ）と、『天使にラブソングを・・・』（92年）の黒人女優ウーピー・ゴールドバーグ（1955年生まれ）。彼女達の語りは率直で説得力がある。

圧巻は名優ヘンリー・フォンダの娘でアカデミー主演女優賞を2度受賞したという輝かしい実績の反面、1970年代のベトナム反戦運動の闘士として名を馳せたジェーン・フォンダ。1991年に引退してから早くも10年以上が経つが、彼女は1937年生まれだから、今や何と66歳。そのジェーン・フォンダが語るハリウッド女優の魅力としんどさについての語りや仕事と家庭の両立のワザについての説明は実に説得力があり、じっと聞き入ってしまうことうけあいだ。

<さすがによくしゃべるアメリカ人>

インタビュー形式でつくられた映画は珍しい。この場合テーマをうまくしぼらなければ話が散漫になり、面白くなくなってしまう危険がある。また数名が参加したディスカッション形式でのインタビューになると、どうしてもハイテンションになったり、逆にグチのこぼし合いになったりする危険もある。それをうまく整理しまた編集したのがこの映画だ。そして全編を通じて思うのは、さすがアメリカ人はよくしゃべるし、表情豊かだということ。それぞれの女優が自分の本音をホントに真剣に語っていることがよくわかる。それも、1人1人が自分の言葉でしゃべっている。これはホントに立派なもの。さすが超一流女優

ただと感心。

2003（平成15）年10月14日記